京都造形芸術大学通信教育部大学院修了式・芸術部卒業式式辞

2016 年 3 月 19 日
京都造形芸術大学学長　尾池和夫

京都造形芸術大学大学院芸術研究科（通信教育）を修了された 75 名の皆さん、芸術学部通信教育部を卒業された 419 名の皆さん、おめでとうございます。

今日の式典までに、ご家族の方々のご支援があり、熱意のこもった添削指導とスクーリングに対する教員の努力がありました。また、皆さんはしっかりとそれらに応えて、今日の修了あるいは卒業の日を迎えられました。参列の学校法人瓜生山学園の役員、京都造形芸術大学の副学長、研究科長、学部長、通信教育部長、センター長、教職員とともに、心からお祝いを申し上げます。

通信教育部では、添削指導で大量の作品などをやりとりする発送業務もたいへんです。多くの関係者の毎日の努力と、皆さんの努力が、今回の卒業・修了展に結実しています。関係の方々の日頃のご努力にも、あらためて敬意を表し、感謝申し上げます。

「１８歳－９６歳、日本中に学生がいる芸大」と、京都造形芸術大学芸術学部通信教育部の説明で申し上げてきましたが、卒業証書を差し上げた 419 名の方々の中に、先ほどご紹介した 96 歳の平田さんも含まれております。今回はウェブサイトなども全面的に改定することになりました。今年、世界最高齢の大学卒業生として世界的な話題の中心となった平田繁實さんの卒業制作は、「語らい２」です。今日は 96 歳と 200 日での卒業式に、香川県高松市からお一人でご出席です。お子様 2 人、お孫さん 5 人、曾孫 4 人に祝福されてのご卒業です。私よりも 20 年年長です。飽くことのない好奇心が後進の私たちに大きな勇気を与えてくれます。

京都造形芸術大学の通信教育部サイバーキャンパスのウェブサイトには、2004 年度以来の掲載許諾のある卒業制作作品や卒業研究論文の要約があります。皆さんも、ぜひそこに作品を残していただきたく存じます。

今年の印象に残ったいくつかの作品を紹介したいと思います。

芸術教養学科では卒業に際して卒業研究「文化資産評価報告書」の作成を課題としています。今回 67 名の卒業生のうち公表に同意のあった文化資産評価報告書 27 件がウェブサイトに公開されています。

亀井里香さんの報告書は「日本独自の染色技法、大阪における「注染」について」です。飛鳥時代の三纐染（さんけちぞめ）に端を発するともいわれる注染は、明治時代に大阪で生まれた日本独自の染色技法です。職人技を生かした量産が可能で、大正時代には大阪から技術者が招聘されて各地で盛んとなったそうです。明治初期、手拭いの需要増加にとも

なって考え出された折付注染法が「注染」の原型で、東京の長板本染ゆかたの流行に対抗したものでした。報告書は、この大阪の地域の特性に密接にかかわる注染が次の代へ継承する技術として、伝統とその継承のあり方を再考することを提起した論文として評価されました。

瀬戸亜美さんの報告書は「世田谷のボロ市－なぜ人を魅了するのか－」です。「世田谷のボロ市」は、東京都世田谷区の冬の風物詩です。毎年、約 60 万～80 万人が訪れて市を楽しみます。なぜそれほどまでに人を魅了するのかというテーマを設定して歴史的背景の調査とインタビューによって考察しました。この市では、骨董品、古着、洋服、農機具、植木、食料品、玩具などの売買が行われます。出店数は約 700 店だそうです。明治時代まで農村地域だった名残で、約 430 年の歴史があり、人々の生活用品の変遷のなかで多くの人々を魅了してきた「世田谷のボロ市」をみごとに論じています。

歴史遺産コース、田中豊さんの研究論文の題名は、「備前岡山城下における江戸時代中期の祭礼―東照宮祭礼と五月節句子供踟物（おねりもの）―」です。備前岡山城下における東照宮祭礼の町方踟物は、元禄 12 年（1699）に、藩主綱政によって 46 年ぶりに復活され、次の継政の時代に最盛期を迎えましたが、宗政の時代の終わり宝歴 13 年（1763）に縮小されました。それが町方では五月節句の子供踟物が天和 3 年（1683）には盛んに行われており、藩の規則と警告をかいくぐりながら、生き延びていったそうです。この論文はこのような特殊な時代を埋没させている先行研究の論調に違和感を覚えたことから、江戸時代中期に絞り、東照宮祭礼の活況と縮小の実態と背景、子供踟物の実態を、またその両者の影響と関係などについて、古記録をデータ化し、絵画資料の解析を加えて論じた興味深いものでした。

和の伝統文化コース、下村真紀さんの論文題目は、「明治・大正期における珈琲普及史―阪神地域の先進性への視点から―」です。珈琲は、昭和 47 年（1972）に緑茶の消費量を上回り、日本人に最も多く飲まれる嗜好飲料になりました。この論文では、日本における珈琲普及は、東京から広まったのではなく、横浜と神戸の各居留地から始まったと考え、新聞、内国勧業博覧会資料、登録商標資料、貿易資料をもとに、明治・大正期における珈琲普及史を、阪神間に着目して論じたものです。

洋画の 前田智子さんの作品は、展示の仕方の効果だけではなく、立体感のある絵だと思いました。少し離れて見るのがちょうど良いなと感じました。大きな展示場がふさわしい作品と言えます。陶芸の中木貴子さんの作品は、網模様を作るのに高度な技術が必要だと思いますが、線の細さが素敵で、モノクロが作品に合っていると思いました。影を魅せる作品と言えそうです。染織の北岡悦子さんの作品は、配色が派手さを感じさせないシンプルなデザインで、着るひとのスタイルを良く見せる作品だと思いました。写真の佐野光子さんの誇張したイメージの表現がおもしろく、強いイメージをモノクロで表現して成功しました。ランドスケープデザインの戸塚博子さんは、散骨場の作品を完成しました。空間

演出デザインの桐畑淳さんは、ポイ捨てを無くそうという発想に共感が持てますが、そもそも、ポイ捨てをする人に対してどうすればいいか、湖岸に近づけないように個人が河川を占拠している問題とどうすればいいのか、さまざまのことを考えさせられる作品でした。梅田のマップを作成した 田中さんには、ぜひジグソーパズルにしてくださいとお願いしました。阪神電車のデザインがよいと思いました。

毎年思うのですが、作品群の印象が、全体として昨年と異なったものになりました。個性豊かな作品が多いということだと思います。皆さんのこれからのご活躍が、また一段と期待される作品群だと思いました。

京都造形芸術大学通信教育部で修士の学位を得られた方は現在までに 540 名、学士の学位を得られた方は、現在までに 5697 名になりました。出身の方たちが各地で活躍しています。皆さんの卒業、あるいは修了後の人生はさまざまでしょうが、くれぐれも健康に留意され、何よりも元気で、ご活躍くださるよう祈って、私の式辞といたします。修士および学士の学位を得られた皆さま、まことにおめでとうございます。

ありがとうございました。